



『西原町史』発刊に向けて⑦

『西原町史』「西原の言語（仮題）」の発刊に向けて進めている方言調査の中から、今回は動植物の吉凶きうこうに関する言い伝えについてご紹介します。

ヤマモモ

方言名はヤマムムト
言います。「ムムトウ
イチマデイン（百年い
つまでも）」という意
味で縁起えんぎの良い木であ
ると言われています。



クチナシ

いい香りがする白い
花で、その形から方言
名をカジマヤー（かざ
ぐるま）と言います。
クチゲーシ（口返し）
悪口を返す）とされ、
カレー（嘉例かれい。縁起がよい）と言われ
ています。【幸地・安室】



モモタマナ

方言名はクフアディ
ーサ・クワーディーサー
ー・クワディーサー・
クワディーサなどと言
います。人の泣き声や馬
のひづめの音を聞いて
生長せいじやうすると言われ、縁
起が悪いとされます。そのため、屋敷内
に植えることはなく、日影を作るために
墓場・馬場・広場などに植えていました。
最近さいきんは街路樹や公園樹として多く植えら
れています。【柵原・翁長・小橋川・我謝・
安室・桃原・小波津】



ジヤコウネズミ

方言名はビーチャーと言います。その
鳴き声によって吉凶の区別があり、チン
チン（チーンチーン）と鳴くと良いこと
（お金や便り）が入ってくるいとされ、逆
に悪いことがあるときにはピチピチ・ピ
リピリーと鳴くそうです。また、クチュ
クチュと鳴くと悪い客（クチカネームン
|| おしやべりな人）が来るとされました。
【幸地・柵原・翁長・呉屋・小橋川・我謝・
安室・桃原・小波津】

カラス

方言名はガラサー・ガラシなどと言
います。

ます。昔はめつたにいなかったそうです
が、凶鳥とされており、鳴くと「イー
ク
トウ カタリ（良いことを語れ）」と唱
えたそうです。また、鳴く時間やその方
向によって吉凶の区別があります。ヒル
ガラサー（昼間鳴くカラス）がより不吉
とされました。夜、お産のときに来て鳴
くことは良いことで、これをツクワナシ
ガラサー（子を生なすカラス）と言
います。東
の空へ飛んでいくと子どもが産まれるそ
うです。また、北か南の方向に飛んで行
きながら鳴くと、どこかに不幸があると
言われました。山に向かうときは人が亡
くなるうとされ、海に向かうときも何か（良
くないこと）があるとされていました。
【幸地・柵原・翁長・呉屋・
小橋川・我謝・安室・小波津】

ムカデ

方言名はンカジと言います。その姿を
見かけたり、家の中に入ってくるとカリ
ー（嘉例。縁起がよい）とされました。
刺さされるとニワトリが鳴く（夜が明ける）
まで痛くて大変ですが、「コッコレーコ
ー」とニワトリの鳴きまねをすると治る
と言われたそうです。【翁長・小橋川】



参考文献

『西原町の自然、動物・人と自然の関わり』／
西原町教育委員会発行

『西原町史』

◆全巻セット価格 1万円!◆

- 第2巻「西原の文献資料」 ¥1,500-
- 第3巻「西原の戦時記録」 ¥1,500-
- 第4巻「西原の民俗」 ¥1,800-
- 第5巻「西原の考古」 ¥1,200-
- 第6巻「西原の移民記録」 ¥1,200-

- 第7巻「西原の産業」 ¥900-
- 別巻「西原の民話」 ¥1,800-
- 『戦災被災者記録』 ¥900-
- 付属刊行物「西原町の自然」 ¥300-
- ガイドマップ「西原の自然と文化」 ¥100-

